

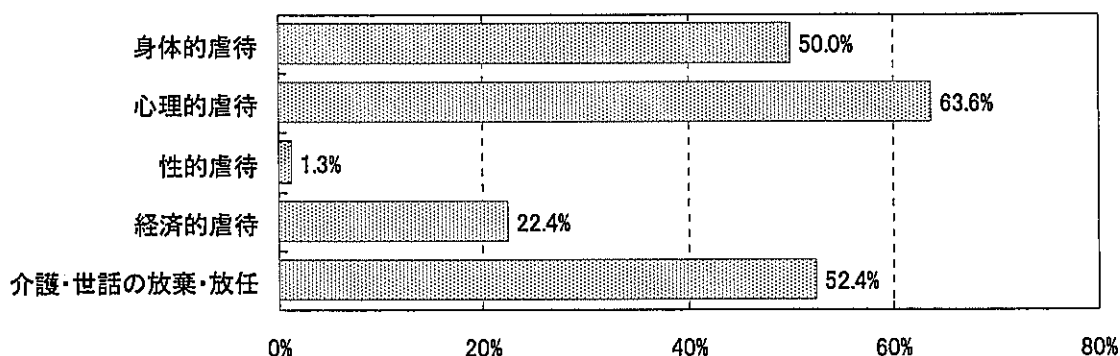
### (3) 虐待の状況（複数回答）

#### ①虐待の内容

虐待の内容については、「担当ケアマネジャー」からの回答では、「心理的虐待」が63.6%で最も多くあげられている。次いで「介護・世話の放棄・放任」が52.4%、「身体的虐待」が50.0%となっている。

機関別に虐待の内容をみると、ほとんどの機関で「心理的虐待」が最も多いが、「基幹型在宅介護支援センター」、「政令都市・中核市・特別区設置保健所」、「市町村保健センター」からの回答では、「経済的虐待」の割合が他機関より高く、3割を超えている。

図表14 （担当ケアマネジャー）虐待の内容（複数回答） n=1,991



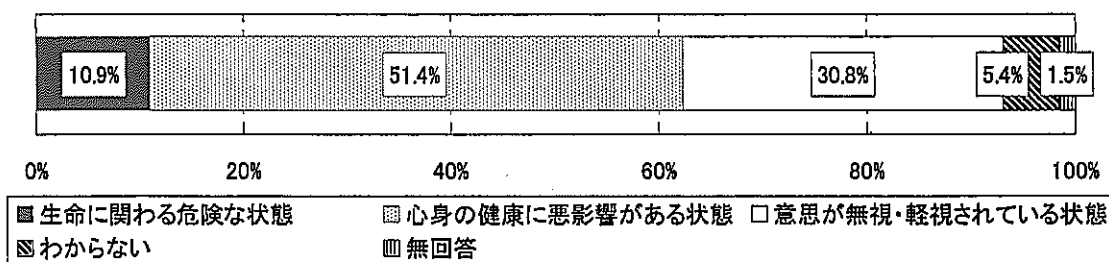
図表15 機関別 虐待の内容（複数回答）

	合計	身体的虐待	心理的虐待	性的虐待	経済的虐待	介護・世話の放棄・放任	無回答
担当ケアマネジャー	1,991 100.0%	996 50.0%	1,267 63.6%	25 1.3%	445 22.4%	1,044 52.4%	7 0.4%
居宅介護支援	1,365 100.0%	634 46.4%	891 65.3%	20 1.5%	305 22.3%	725 53.1%	8 0.6%
地域型在宅介護支援センター	1,117 100.0%	578 51.7%	668 59.8%	16 1.4%	300 26.9%	581 52.0%	1 0.1%
基幹型在宅介護支援センター	532 100.0%	289 54.3%	306 57.5%	3 0.6%	177 33.3%	262 49.2%	0 0.0%
訪問介護	307 100.0%	143 46.6%	201 65.5%	4 1.3%	84 27.4%	140 45.6%	5 1.6%
訪問看護	336 100.0%	181 53.9%	226 67.3%	6 1.8%	47 14.0%	180 53.6%	1 0.3%
通所介護	512 100.0%	272 53.1%	331 64.6%	6 1.2%	101 19.7%	245 47.9%	1 0.2%
病院	55 100.0%	34 61.8%	33 60.0%	1 1.8%	16 29.1%	21 38.2%	1 1.8%
老人保健施設	227 100.0%	133 58.6%	115 50.7%	1 0.4%	43 18.9%	111 48.9%	0 0.0%
都道府県保健所	37 100.0%	27 73.0%	26 70.3%	1 2.7%	10 27.0%	17 45.9%	0 0.0%
政令、中核、特別区保健所	124 100.0%	70 56.5%	70 56.5%	3 2.4%	44 35.5%	65 52.4%	0 0.0%
市町村保健センター	265 100.0%	152 57.4%	157 59.2%	1 0.4%	91 34.3%	142 53.6%	0 0.0%

## ②虐待の深刻度

虐待が最も深刻だった時点での高齢者の状態については、「心身の健康に悪影響がある状態」が51.4%、「意思が無視・軽視されている状態」が30.8%、「生命に関わる危険な状態」が10.9%であった。

図表16 虐待が最も深刻だった時点での高齢者の状況 n=1,991



## ③虐待についての自覚

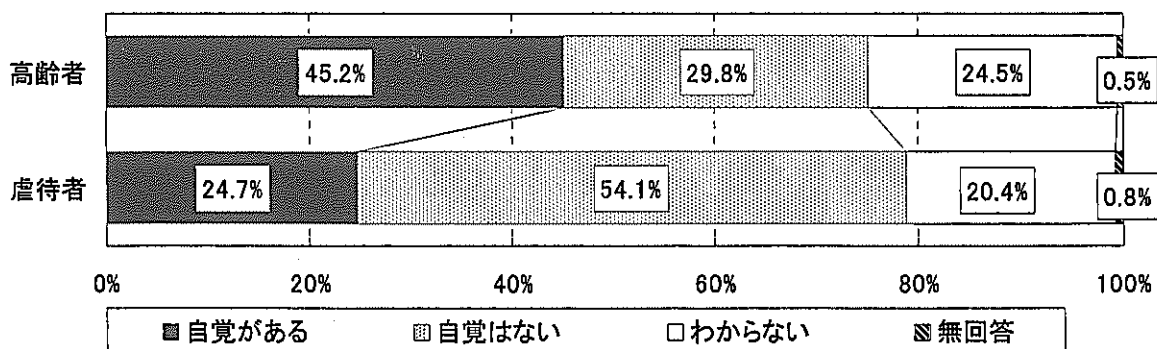
### 1) 高齢者本人の自覚

高齢者本人に、自分自身が虐待されている自覚があるかどうかを記入者にたずねたところ、「自覚がある」が45.2%、「自覚はない」が29.8%で、「自覚がある」という回答のほうが多かった。

### 2) 虐待者の虐待に対する自覚

回答者からみて、虐待をしている人は自分が虐待をしているという自覚を持っていると思うかについては、「自覚がある」が24.7%、「自覚はない」が54.1%で、「自覚はない」という回答のほうが多い。

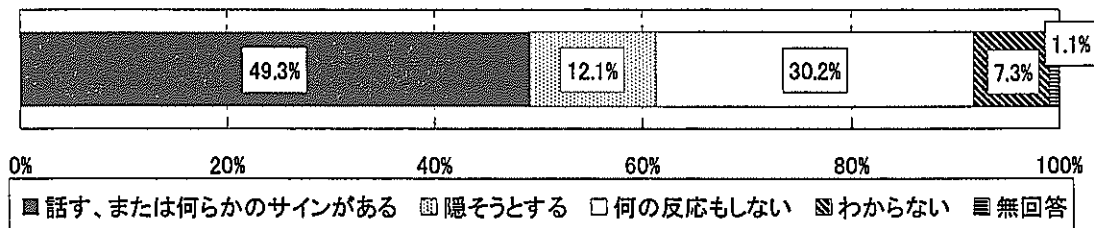
図表17 虐待についての自覚 n=1,991



#### ④高齢者からの虐待についての意思表示

高齢者本人はつらい目にあっていることを記入者に知らせようとしたことがあるかどうかについては、「話す、または何らかのサインがある」が49.3%と半数を占めている。「隠そうとする」という回答は12.1%であった。「何の反応もしない」が30.2%となっている。

図表18 高齢者からの虐待についての意思表示 n=1,991

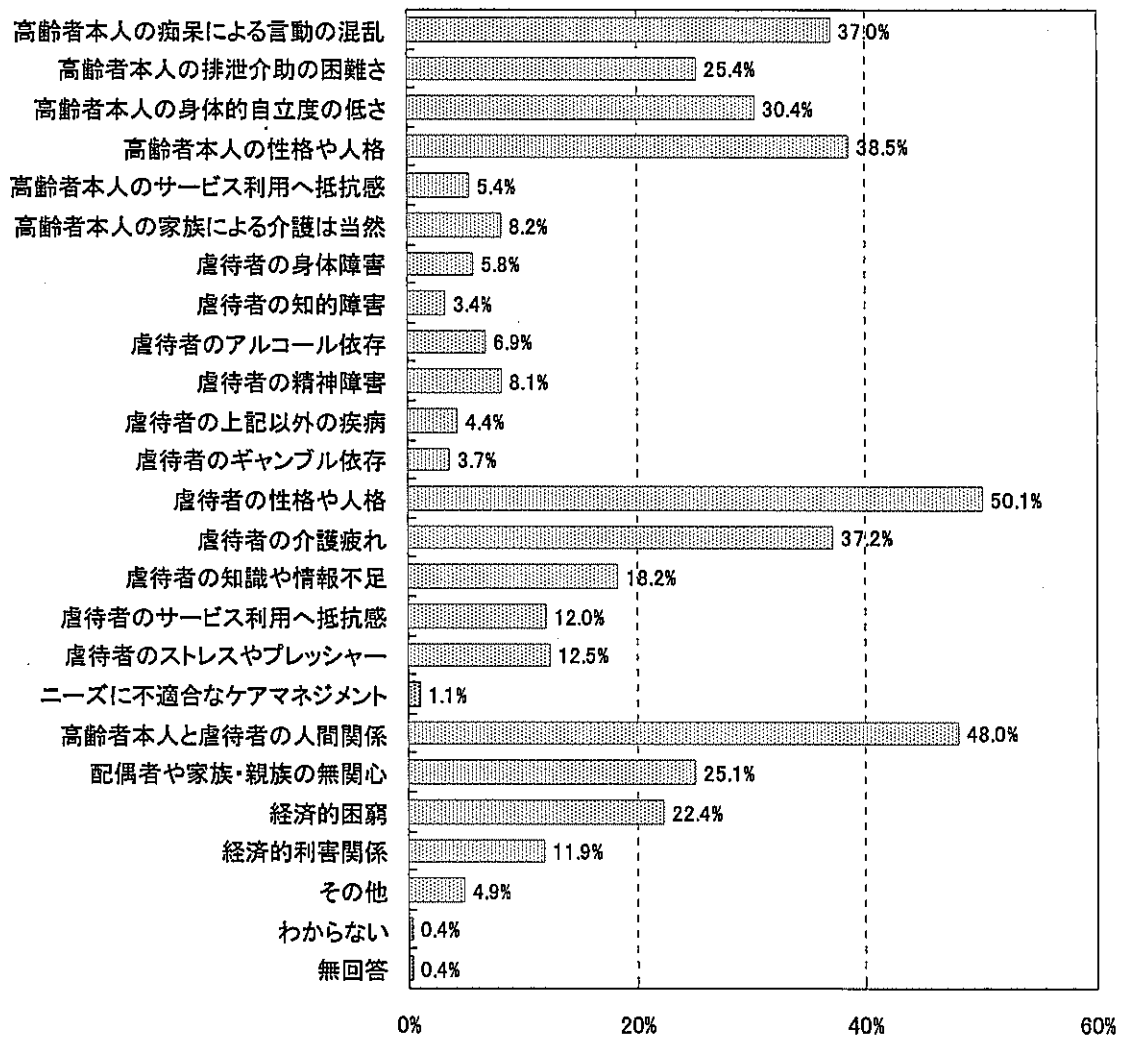


### ⑤虐待の発生の要因と考えられること

虐待が発生した要因について、影響があったと思われること全てをあげてもらったところ、「虐待をしている人の性格や人格」が50.1%で最も多く、次いで「高齢者本人と虐待をしている人のこれまでの人間関係」(48.0%)、「高齢者本人の性格や人格」(38.5%)と虐待者や高齢者の性格や人格、人間関係上の問題が多く挙げられていた。

次いで、「虐待者の介護疲れ」(37.2%)、「高齢者本人の痴呆による言動の混乱」(37.0%)、「高齢者本人の身体的自立度の低さ」(30.4%)、「高齢者本人の排泄介助の困難さ」(25.4%)の介護負担を挙げるものが続き、さらに次いで、「配偶者や家族・親族の無関心」(25.1%)、「経済的困窮」22.4%となっている。

図表19 発生の要因として影響があったと思われること全て (複数回答) n=1,991



#### (4) 関係機関の関わり

##### ①虐待の発見、気づきの状況

記入者が虐待を知った経緯について、「担当ケアマネジャー」からの回答では、「記入者自身による気づき」が27.8%で最も多く、次いで「記入者以外の機関職員の気づき・連絡」が19.2%となっており、あわせて「記入者所属の機関の気づき」が47.0%となっている。

「高齢者本人からの申告」が15.6%、「他機関からの情報連携」が10.3%となっている。

「基幹型在宅介護支援センター」「都道府県設置保健所」「政令都市・中核市・特別区設置保健所」「市町村保健センター」は「他機関からの情報連絡」が最も多く、それぞれ、30.8%、40.5%、37.1%、29.8%となっている。

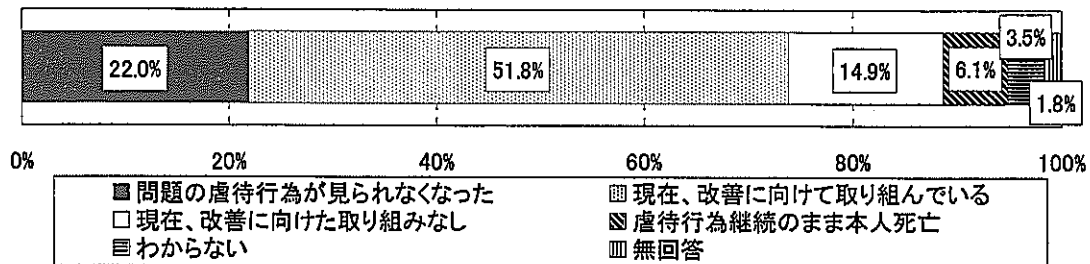
図表20 機関別 虐待を知った経緯

	合計	記入者所属の機関の気づき		高齢者本人からの申告	虐待をしている人からの申告	高齢者本人の家族、親族からの申告	自機関の他利用者や家族からの連絡	住民からの連絡	民生委員からの連絡	他機関からの情報連携	その他	不明
		あなた自身による気づき	自身以外の機関職員の気づき、連絡									
担当ケアマネジャー	1,991 100.0%	554 27.8%	382 19.2%	310 15.6%	148 7.4%	196 9.8%	13 0.7%	18 0.9%	21 1.1%	205 10.3%	48 2.4%	96 4.8%
居宅介護支援	1,365 100.0%	438 32.1%	247 18.1%	231 16.9%	97 7.1%	106 7.8%	9 0.7%	10 0.7%	7 0.5%	115 8.4%	31 2.3%	74 5.4%
地域型在宅介護支援センター	1,117 100.0%	204 18.3%	209 18.7%	157 14.1%	77 6.9%	130 11.6%	10 0.9%	27 2.4%	58 5.2%	182 16.3%	28 2.5%	35 3.1%
基幹型在宅介護支援センター	532 100.0%	55 10.3%	90 16.9%	61 11.5%	18 3.4%	53 10.0%	3 0.6%	23 4.3%	44 8.3%	164 30.8%	15 2.8%	6 1.1%
訪問介護	307 100.0%	105 34.2%	70 22.8%	49 16.0%	15 4.9%	10 3.3%	3 1.0%	3 1.0%	1 0.3%	19 6.2%	8 2.6%	24 7.8%
訪問看護	336 100.0%	143 42.6%	53 15.8%	52 15.5%	25 7.4%	11 3.3%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	24 7.1%	2 0.6%	24 7.1%
通所介護	512 100.0%	147 28.7%	120 23.4%	116 22.7%	24 4.7%	19 3.7%	3 0.6%	4 0.8%	6 1.2%	38 7.4%	6 1.2%	29 5.7%
病院	55 100.0%	6 10.9%	16 29.1%	6 10.9%	2 3.6%	4 7.3%	1 1.8%	1 1.8%	0 0.0%	14 25.5%	2 3.6%	3 5.5%
老人保健施設	227 100.0%	34 15.0%	62 27.3%	28 12.3%	14 6.2%	25 11.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%	52 22.9%	5 2.2%	5 2.2%
都道府県保健所	37 100.0%	0 0.0%	1 2.7%	8 21.6%	2 5.4%	6 16.2%	2 5.4%	1 2.7%	0 0.0%	15 40.5%	1 2.7%	1 2.7%
政令、中核、特別区保健所	124 100.0%	6 4.8%	13 10.5%	12 9.7%	4 3.2%	5 4.0%	0 0.0%	8 6.5%	18 14.5%	46 37.1%	10 8.1%	2 1.6%
市町村保健センター	265 100.0%	21 7.9%	39 14.7%	40 15.1%	8 3.0%	16 6.0%	4 1.5%	15 5.7%	26 9.8%	79 29.8%	11 4.2%	6 2.3%

## ②現在の対応状況

回答事例について、現在の状態についてたずねたところ、「現在、改善に向けて取り組んでいる」が51.8%で最も多く、次いで「問題にしている虐待行為が見られなくなった」が22.0%、「現在のところ改善に向けた取り組みは行われていない」が14.9%となっている。「虐待行為継続のまま死亡」という回答も6.1%あった。

図表21 現在の対応状況 n=1,991



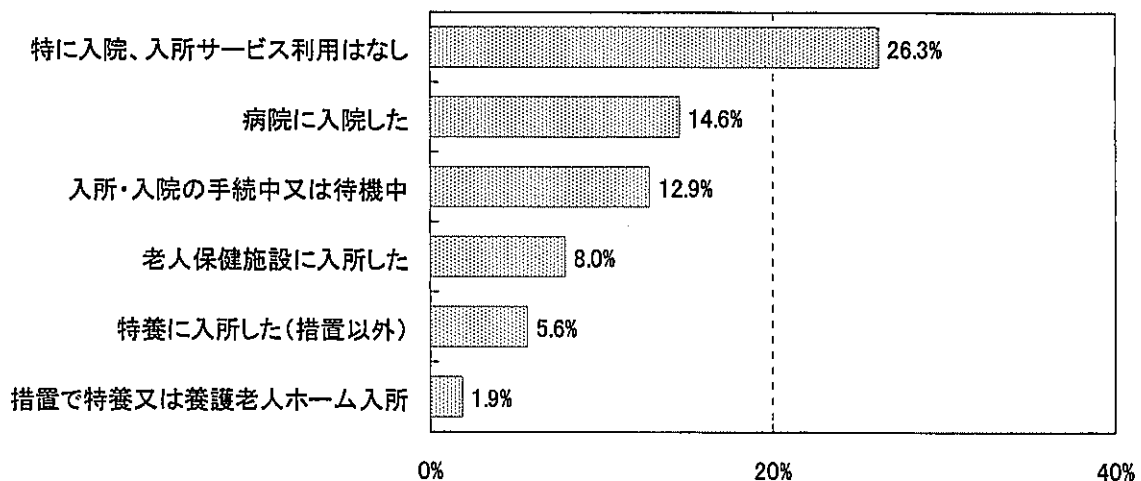
## ③問題解決のためのサービス利用状況

### 1) 解決のための入院・施設入所等のサービスの利用状況

回答事例について、解決のための入院・施設入所等のサービスの利用状況についてたずねたところ、「特に入院、入所サービスは利用しなかった」は26.3%、「病院に入院した」が14.6%、「入所・入院の手続き中」が12.9%、「老人保健施設に入所した」が8.0%となっている。

「特別養護老人ホームに措置以外で入所した」が5.6%、「措置で特別養護老人ホームまたは養護老人ホームに入所した」は1.9%であった。

図表22 解決のための入院・施設入所等のサービスの利用状況 (主なもの) n=1,470

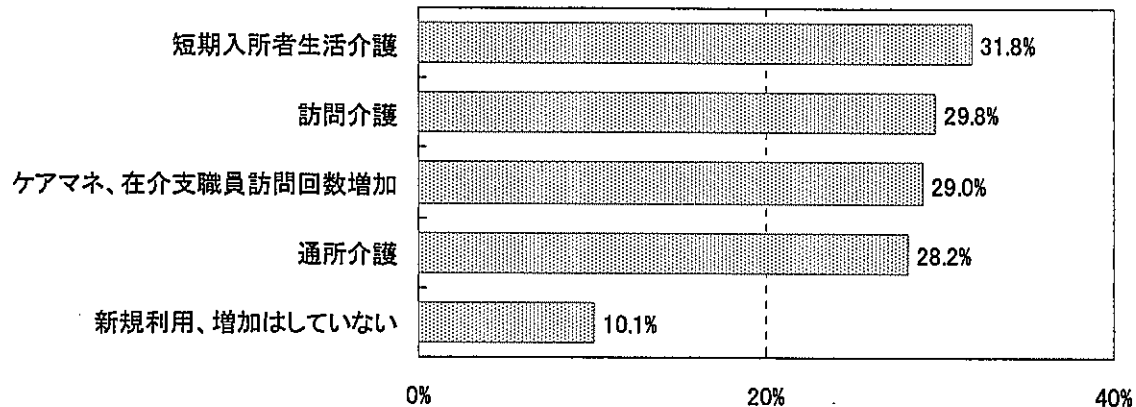


## 2) 解決のために新規・増加させた在宅介護サービス

回答事例の解決のために新規あるいは増加させた介護サービスをたずねたところ、「短期入所者生活介護」(31.8%)が最も多い。

次いで、「訪問介護」(29.8%)、「ケアマネまたは在介支職員の訪問回数を増やした」(29.0%)、「通所介護」(28.2%)が2割を超える回答となっている。

図表23 問題解決のために新規・増加させた在宅介護サービス (複数回答) 上位5位 n=1,470

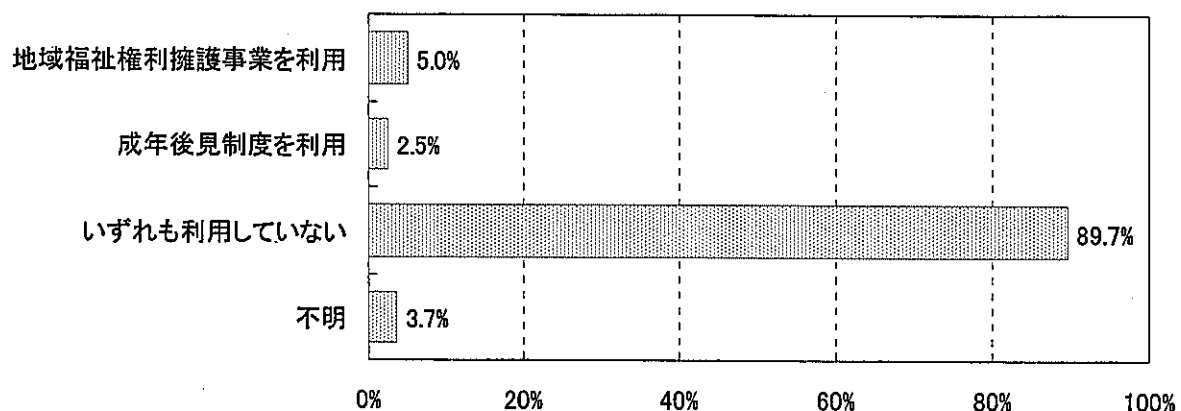


## 3) 地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の利用状況

地域福祉権利擁護事業、または、成年後見制度の利用または利用の相談の有無については、「いずれも利用していない」が89.7%となっている。

「地域福祉権利擁護事業を利用(相談)した」は5.0%、「成年後見制度を利用(相談)した」は2.5%となっている。

図表24 地域福祉権利擁護事業・成年後見制度の利用状況 (複数回答) n=1,470

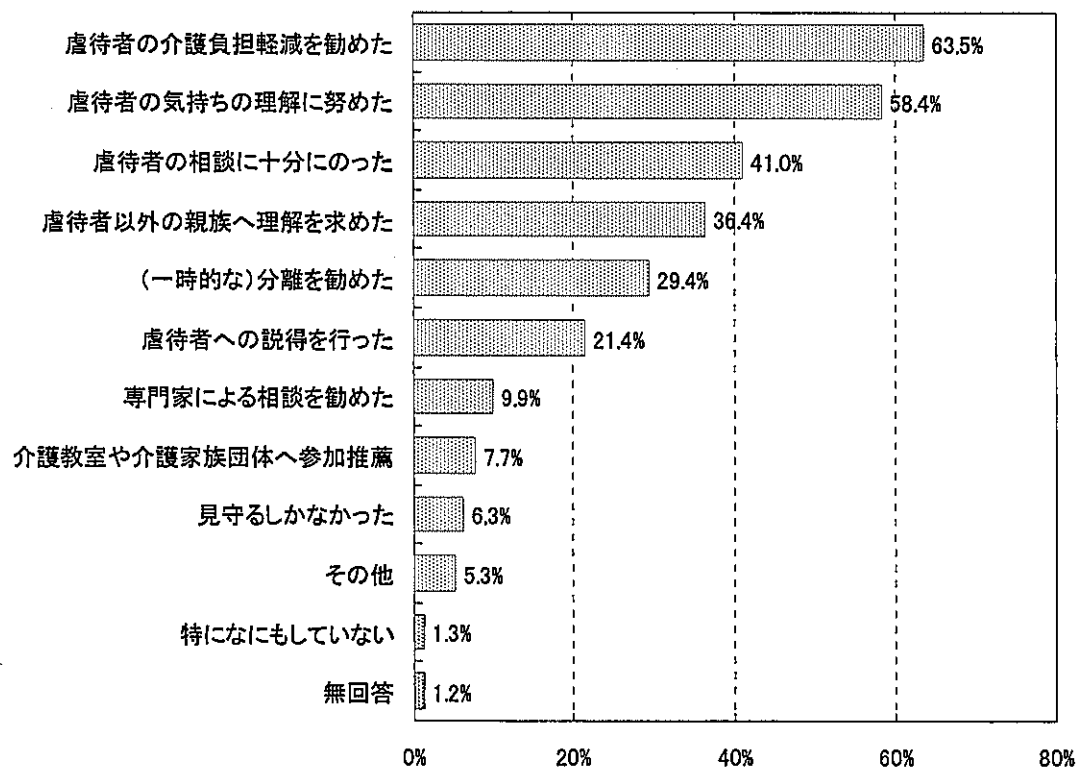


#### ④問題解決のために行った虐待者への働きかけ

回答事例の問題解決のために虐待をしている人にどのような働きかけをしたかについては、「担当ケアマネジャー」からの回答では、「虐待をしている人の介護負担を軽減するような介護サービスの利用を勧めた」が63.5%、次いで、「虐待をしている人の気持ちの理解に努めた」(58.4%)、「虐待をしている人の相談に十分にのった」(41.0%)となっている。「(一時的な)分離を勧めた」という回答も29.4%あった。

機関別にみると、「都道府県設置保健所」からの回答で「専門家による相談を勧めた」が40.6%と他機関に比べ高い割合となっている。また、「訪問介護」「訪問看護」「通所介護」といった介護サービス事業者からの回答では「見守るしかなかった」が他の機関に比べ高かった。

図表25 (担当ケアマネジャー)問題解決のために行った虐待者への働きかけ(複数回答) n=1,470





図表26 機関別 問題解決のために行った虐待者への働きかけ（複数回答）

	合計	虐待者の相談に十分に行った	虐待者の気持ちの理解に努めた	虐待者への説得を行った	虐待者以外の親族へ理解を求めた	虐待者の介護負担軽減を勧めた	(一時的な)分離を勧めた	介護教室や介護家族団体へ参加推薦	専門家による相談を勧めた
担当ケアマネジャー	1,470 100.0%	603 41.0%	858 58.4%	315 21.4%	535 36.4%	934 63.5%	432 29.4%	113 7.7%	146 9.9%
居宅介護支援	946 100.0%	375 39.6%	549 58.0%	196 20.7%	326 34.5%	578 61.1%	254 26.8%	66 7.0%	84 8.9%
地域型在宅介護支援センター	841 100.0%	305 36.3%	434 51.6%	176 20.9%	304 36.1%	466 55.4%	237 28.2%	57 6.8%	89 10.6%
基幹型在宅介護支援センター	430 100.0%	135 31.4%	192 44.7%	81 18.8%	166 38.6%	195 45.3%	126 29.3%	31 7.2%	53 12.3%
訪問介護	173 100.0%	49 28.3%	85 49.1%	33 19.1%	49 28.3%	77 44.5%	32 18.5%	4 2.3%	14 8.1%
訪問看護	201 100.0%	79 39.3%	124 61.7%	43 21.4%	54 26.9%	120 59.7%	33 16.4%	6 3.0%	13 6.5%
通所介護	278 100.0%	58 20.9%	100 36.0%	37 13.3%	50 18.0%	120 43.2%	41 14.7%	11 4.0%	15 5.4%
病院	33 100.0%	6 18.2%	9 27.3%	8 24.2%	8 24.2%	16 48.5%	8 24.2%	0 0.0%	3 9.1%
老人保健施設	168 100.0%	30 17.9%	41 24.4%	22 13.1%	46 27.4%	61 36.3%	39 23.2%	6 3.6%	10 6.0%
都道府県保健所	32 100.0%	6 18.8%	10 31.3%	8 25.0%	9 28.1%	10 31.3%	12 37.5%	1 3.1%	13 40.6%
政令、中核、特別区保健所	101 100.0%	30 29.7%	49 48.5%	25 24.8%	38 37.6%	42 41.6%	27 26.7%	6 5.9%	13 12.9%
市町村保健センター	207 100.0%	56 27.1%	96 46.4%	25 12.1%	67 32.4%	86 41.5%	56 27.1%	8 3.9%	25 12.1%

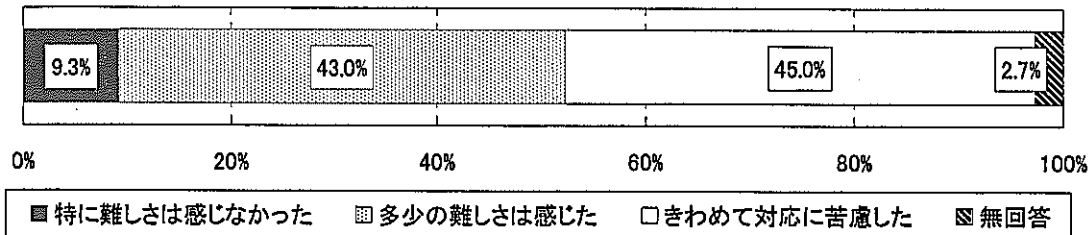
	合計	見守るしかなかった	その他	特になにもしていない	無回答
担当ケアマネジャー	1,470 100.0%	92 6.3%	78 5.3%	19 1.3%	17 1.2%
居宅介護支援	946 100.0%	75 7.9%	50 5.3%	16 1.7%	13 1.4%
地域型在宅介護支援センター	841 100.0%	73 8.7%	67 8.0%	15 1.8%	10 1.2%
基幹型在宅介護支援センター	430 100.0%	37 8.6%	53 12.3%	28 6.5%	5 1.2%
訪問介護	173 100.0%	27 15.6%	10 5.8%	6 3.5%	2 1.2%
訪問看護	201 100.0%	30 14.9%	10 5.0%	4 2.0%	2 1.0%
通所介護	278 100.0%	57 20.5%	12 4.3%	24 8.6%	9 3.2%
病院	33 100.0%	3 9.1%	3 9.1%	2 6.1%	2 6.1%
老人保健施設	168 100.0%	17 10.1%	10 6.0%	22 13.1%	5 3.0%
都道府県保健所	32 100.0%	3 9.4%	9 28.1%	3 9.4%	1 3.1%
政令、中核、特別区保健所	101 100.0%	13 12.9%	16 15.8%	4 4.0%	1 1.0%
市町村保健センター	207 100.0%	21 10.1%	21 10.1%	15 7.2%	0 0.0%

### ⑤対応の困難さ、援助上、困難であった点

回答事例への対応について、対応の困難さをたずねたところ、「きわめて対応に苦慮した」が45.0%、「多少の難しさは感じた」が43.0%となっており、「特に難しさは感じなかった」は9.3%にとどまっている。

対応に難しさを感じた記入者に、援助上、困難であった点をたずねたところ、「虐待をしている人が介入を拒む」が38.2%で最も多く、次いで「自分がどのように係わればよいか、技術的に難しかった」が33.6%、「自分がどのように係わればよいか、立场上難しかった」が30.3%、「経済的理由でサービス利用を増やすのが困難だった」が26.8%となっている。

図表27 対応の困難さ n=1,470



図表28 援助上、困難であった点 (複数回答) n=1,293

